

公 開  
資料 3

第 3 7 2 回 幹 事 会  
公 開 審 議 事 項

令和 6 年 9 月 30 日

日 本 学 術 会 議

# 公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係について は概要を記載)	説明者	根拠規定等
-------	-----	-----------	--	-----	-------

## III 公開審議事項

### 1. 委員会関係

提案 1	(分野別委員会合同 分科会) 第一部合同分科会 委員の決定（追加 1 件）	会長	4	第一部国際協力分科会委員を決定する必 要があるため。	第一部 長	内規第18条
	(分野別委員会) (1)運営要綱の一部改 正(新規設置 2件) (2)分科会委員の決定 (新規 1 件、追加 3 件) (3)小委員会委員の決 定(新規 1 件)	(1)経営学委員会 委員長、臨床医学 委員会委員 長、総合工学委 員会委員長(2)第 一部長、第二部 長、第三部長 (3)第二部長	5	分科会及び小委員会の設置に伴い、運営 要綱を一部改正とともに、分科会委 員及び小委員会委員を決定する必要があ るため。	第一部 長、第 二部 長、第 三部 長	(1)会則27 条 1 項 (2)(3)内規 第18条

### 2. 国際関係

提案 3	令和 6 年度代表派遣 について、実施計画 を変更等すること	会長	12	令和 6 年度代表派遣について、実施計画 を変更等する必要があるため。	日比谷 副会長	国際交流事 業の実施に 関する内規 第19条 2 項、22条
	令和 6 年度アジア学 術会議に関する国際 会議への代表者の派 遣、海外招へい者の 派遣について変更す ること	会長	13	令和 6 年度アジア学術会議に関する国際 会議等への代表者の派遣、海外招へい者 の派遣について、変更する必要があるた め。  ※国際委員会 9月27日承認、同アジア学 術会議等分科会 9月17日承認	日比谷 副会長	令和 6 年度 アジア学術 会議等代表 派遣の基本 方針

### 3. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

【令和 6 年度第 3 四半期】(追加)

提案 5	公開シンポジウム 「増大する野生動物 と人間の軋轢：これ からの鳥獣管理と人 間社会を考える」の 開催について	統合生物学委員 会委員長、基礎 生物学委員会委 員長	15	主催：日本学術会議統合生物学委員会・ 基礎生物学委員会合同ワイルドライフサイ エンス分科会 日時：令和 6 年 11 月 24 日（日）13:00～ 17:00 場所：日本学術会議講堂（東京都港区） (ハイブリッド開催)  ※第二部承認	—	内規別表第 2

### 4. その他のシンポジウム等

提案 6	公開シンポジウム 「プラネタリー・ヘル スフレームワークで 築く人類と地球の持 続可能な共生社会」 の開催について	健康・生活科学 委員会委員長、 環境学委員会委 員長	17	主催：環境学委員会・健康・生活科学委 員会合同環境リスク分科会、広島大学 IDEC国際連携機構 日時：令和 6 年 11 月 9 日（土）13:00 ～16:15 場所：広島大学霞キャンパス凌雲棟 (広島県広島市) (ハイブリッド開催)  ※第三部承認	—	内規別表第 2

提案 7	公開シンポジウム 「「わたしたちごと」としてのケア～家族だけでも、専門家だけでもなく」の開催について	健康・生活科学委員会委員長、臨床医学委員会委員長	20	主催：日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会、臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会、健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会 日時：令和6年11月24日（日）13:00～16:00 場所：オンライン開催 <b>※第二部承認</b>	—	内規別表第2
提案 8	公開シンポジウム 「総合的病害虫・雑草管理の課題と望まれる新技術」の開催について	農学委員会委員長	24	主催：日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会 日時：令和6年11月30日（土）13:00～16:50 場所：オンライン開催 <b>※第二部承認</b>	—	内規別表第2
提案 9	公開シンポジウム 「第14回計算力学シンポジウム」の開催について	総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長	26	主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会 日時：令和6年12月10日（火）10:00～17:30 場所：日本学術会議講堂（東京都港区）（ハイブリッド開催） <b>※第三部承認</b>	—	内規別表第2
提案10	公開シンポジウム 「人工知能で生命を追求する データ駆動による生命の理解－細胞から人の動きまで－」の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、農学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、薬学委員会委員長、情報学委員会委員長	29	主催：日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同IUPAB分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会 日時：令和7年1月9日（木）13:00～18:00 場所：日本学術会議講堂（東京都港区） <b>※第二部承認</b>	—	内規別表第2

## 5. 後援

提案11	国際会議の後援をすること	会長	32	以下の国際会議について、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援とすることとした。 ・第16回有機エレクトロニクスに関するアジア会議 ・第2回世界マリンステーション会議	—	国際学術交流事業に関する内規第39条
提案12	国内会議の後援をすること	会長	33	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとした。 ・第21回日本社会福祉学会フォーラム ・第48回人間－生活環境系シンポジウム ・キャリー・ファウラー博士特別シンポジウム ・第19回医療の質・安全学会学術集会 ・令和6（2024）年度日本結晶学会年会特別講演会 ・第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会（令和6年度）	—	後援名義使用承認基準3(2)ウ

## 6. その他

	件名	資料(頁)
参考	<b>今後の予定</b> 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は第192回総会期間中に開催予定。	35

**【分野別委員会合同分科会】**

○分科会委員の決定（追加 1 件）

（第一部国際協力分科会）

氏名	所属・職名	備考
中野 聰	一橋大学学長	連携会員

【設置：第 351 回幹事会（令和 5 年 8 月 29 日）、追加決定後の委員数：13 名】

提案 2

分野別委員会運営要綱（平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後					改 正 前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間
経営学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	経営学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	経営学委員会ビジネス人材のリカレント教育に関する分科会	1. ビジネス人材のリカレント教育内容 2. ビジネス人材のリカレント教育方法のあり方に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	令和6年9月30日～令和8年9月30日					
臨床医学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	臨床医学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	臨床医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会	(略)	(略)	(略)		臨床医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会	(略)	(略)	(略)
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
	臨床医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会粒子線治療産学共同研究の国際競争力強化検討小委員会	1. 粒子線治療機器開発と臨床応用研究のための国内研究体制 2. 粒子線治療機器の国際的普及促進のための国内体制 3. 粒子線治療や関連技術の高度化のための研究の推進 4. 宇宙医学や量子生命医学など粒子線医学に関連する先端研究分野の研究推進に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	令和6年9月30日～令和8年9月30日					
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	臨床医学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	臨床医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会	(略)	(略)	(略)		臨床医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会	(略)	(略)	(略)
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)

	臨床医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会粒子線治療産学共同研究の国際競争力強化検討小委員会	臨床医学委員会に記載	臨床医学委員会に記載	臨床医学委員会に記載					
	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

(新規設置)

#### 附 則

この決定は、決定の日から施行する。

## 経営学委員会分科会の設置について

### 分科会等名：ビジネス人材のリカレント教育に関する分科会

1	所属委員会名 (複数の場合 は、主体となる 委員会に○印を 付ける。)	経営学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	デジタルトランスフォーメーションやデータサイエンスの応用、人的資本経営、ESG投資などが重要視されている現代日本のビジネスにおいて、経営学教育の対象は、新卒採用される人材だけでなく、すでにビジネスにおいて活動している人材のリカレント教育やリスクリミングに一層力を入れる必要がある。これらについては、多くの議論や実践がすでに存在するが、経営学研究者による教育内容や教育方法の体系的な検討は少ない。そこで、ビジネス人材のリカレント教育における教育内容や教育方法について、経営学領域のみならず、経済学や情報学などの隣接領域の委員も加えて審議し、社会発信を行うことを目的とする。
4	審議事項	1. ビジネス人材のリカレント教育内容 2. ビジネス人材のリカレント教育方法のあり方 に係る審議に関すること
5	設置期間	令和6年9月30日～令和8年9月30日
6	備考	

臨床医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会  
小委員会の設置について

分科会等名：粒子線治療産学共同研究の国際競争力強化検討小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合 は、主体となる 委員会に○印を 付ける。)	○臨床医学委員会 総合工学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>超高齢化社会の到来により2人に1人ががんに罹患する時代となり、より体に優しく安全で安心な治療後のQOLの高いがん治療法が求められている。なかでも粒子線治療（陽子線治療及び重粒子線治療）は、QOLの高い治療法として評価され、今後の需要は高く見込まれ、特に重粒子線治療はその秀逸な臨床成績で国際的に注目されており、熾烈な粒子線治療機器開発と治療技術開発の国際競争の渦中にいる。また、がんの再発治療では、ホウ素中性子捕捉療法（Boron Neutron capture therapy : BNCT）は、日本が主導的立場で世界に発信している最先端がん治療法であり、熾烈な開発競争を戦い抜くための国際的な競争力増強戦略が必要である。</p> <p>ところが、粒子線治療施設の建設には莫大な費用がかかるとともに、日本においては粒子線がん治療の保険医療費が欧米に比べ安く、その経営は非常に厳しい状況にある。根治性を目指せる粒子線治療を推進することは、国民医療と自国経済への貢献の観点でも国益に合致する。今後、高度化する粒子線治療技術の有効性を実証する臨床研究体制の構築や治療対象疾患に対する保険適用の更なる拡大が急務である。そこで、本小委員会では、粒子線がん治療研究、及びその社会実装の国際的な競争力増強支援に関する審議を俯瞰的かつ分野横断的に行う。</p> <p>こうした審議には、物理工学分野と放射線診療分野両方の高度専門的知識や先進技術と国内外の医療・電気産業の社会実装力を有機的に連携させる必要があるため、臨床医学委員会と総合工学委員会の合同分科会の下に本小委員会を設</p>

		置し、粒子線治療や治療機器開発等の専門家や様々な学会関係者に加え、産業界関係者も交えて、産官学の協働研究開発体制を模索し、学際的な審議を行う。
4	審議事項	1. 粒子線治療機器開発と臨床応用研究のための国内研究体制 2. 粒子線治療機器の国際的普及促進のための国内体制 3. 粒子線治療や関連技術の高度化のための研究の推進 4. 宇宙医学や量子生命医学など粒子線医学に関連する先端研究分野の研究推進 に係る審議に関すること
5	設置期間	令和6年9月30日～令和8年9月30日
6	備考	

**【分野別委員会】**

○分科会委員の決定（新規1件）

(経営学委員会ビジネス人材のリカレント教育に関する分科会)

氏名	所属・職名	備考
原 拓志	関西大学商学部教授	第一部会員
青島 矢一	一橋大学イノベーション研究センター教授／一橋大学大学院経営管理研究科教授	連携会員
上野 恭裕	関西大学社会学部社会学科教授	連携会員
内田 浩史	神戸大学大学院経営学研究科教授	連携会員
瓜生原 葉子	同志社大学商学部教授／同志社大学ソーシャルマーケティング研究センターセンター長	連携会員
小津 稚加子	九州大学大学院経済学研究院教授	連携会員
上林 憲雄	神戸大学大学院経営学研究科教授	連携会員
櫻田 涼子	甲南大学経営学部教授	連携会員
清水 聰	慶應義塾大学商学部教授	連携会員
高田 知実	神戸大学大学院経営学研究科教授／神戸大学社会システムイノベーションセンター教授	連携会員
谷口 勇仁	中京大学経営学部教授	連携会員
西尾 チヅル	筑波大学副学長／ビジネスサイエンス系教授	連携会員
原 良憲	大阪成蹊大学データサイエンス学部教授	連携会員
開本 浩矢	大阪大学大学院経済学研究科教授	連携会員
二神 枝保	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授	連携会員
森田 雅也	関西大学社会学部教授	連携会員

【設置予定：第372回幹事会（令和6年9月30日）、決定後の委員数：16名】

○分科会委員の決定（追加3件）

(経済学委員会少子化経済対策分科会)

氏名	所属・職名	備考
津谷 典子	慶應義塾大学教授	連携会員

【設置：第360回幹事会（令和5年12月22日）、追加決定後の委員数：10名】

(基礎医学委員会神経科学分科会)

氏名	所属・職名	備考
宮田 麻理子	東京女子医科大学医学部生理学講座（神経生理学分野）教授／基幹分野長	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：24 名】

(総合工学委員会未来社会と応用物理分科会)

氏名	所属・職名	備考
平野 愛弓	東北大学電気通信研究所教授／東北大学材料科学高等研究所教授	連携会員

【設置：第 361 回幹事会（令和 6 年 1 月 25 日）、追加決定後の委員数：20 名】

○小委員会委員の決定（新規 1 件）

(臨床医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会粒子線治療産学共同研究の国際競争力強化検討小委員会)

氏名	所属・職名	備考
神田 玲子	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構理事	第二部会員
櫻井 博儀	国立研究開発法人理化学研究所仁科加速器科学研究中心センター長	第三部会員
青木 茂樹	順天堂大学健康データサイエンス学部長／大学院医学研究科放射線診断学教授	連携会員
唐澤 久美子	東都大学管理栄養学部教授	連携会員
志田原 美保	東北大学大学院工学研究科准教授	連携会員
中野 隆史	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 QST アソシエイト／群馬大学特別教授	連携会員
西尾 穎治	大阪大学大学院医学系研究科教授	連携会員

【設置予定：第 372 回幹事会（令和 6 年 9 月 30 日）、決定後の委員数：19 名】

## 令和 6 年度代表派遣実施計画の変更等について

以下のとおり、令和 6 年度代表派遣実施計画の変更等を行う。

	会議名称	会期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推薦	内 容
1	G 7 ベルリン科学アカデミー会議	12 月 11 日 ～ 12 月 12 日	ベルリン (ドイツ)	日比谷 潤子 第一部会員 (国際基督教大学名誉教授)	国際委員会	・派遣実施計画の追加 ・派遣者の決定 ※現地出席予定

## 令和 6 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の変更

	国際会議等	会期 計	開催地及び用務地 (※1)	派遣候補者(※2) (職名)	備考 (※3)
1	第 23 回アジア学術会議	10 月 26 日 ～ 10 月 28 日 から 11 月 30 日 ～ 12 月 2 日 に変更	3 日	臼井 恵美子 第一部会員 (一橋大学経済研究所教授)	第 1 区分
2				光石 衛 第三部会員 (独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事／東京大学名誉教授)	
3				大倉 典子 連携会員 (中央大学研究開発機構機構教授／芝浦工業大学名誉教授)	
4				澁澤 栄 連携会員 (東京農工大学卓越リーダー養成機構特任教授)	
5				門田 有希 連携会員 (岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域准教授)	

(※1) 現在アジア学術会議には、バングラデシュ、カンボジア、中国、台湾、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、ベトナムの 18 カ国・地域の 31 機関が加盟しており、一年毎に各国・地域が持ち回りで会議を開催。

(※2) 派遣候補者の会員・連携会員の種別については、26 期現在。

(※3) 令和 6 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針(令和 6 年 2 月 29 日日本学術会議第 363 回幹事会決定)に基づく区分。

令和6年度アジア学術会議に関する国際会議等への海外招へい者の派遣の変更

	国際会議等	会期 計	開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
1	第23回アジア学術会議	10月26日 ～ 10月28日 から 11月30日 ～ 12月2日	3日	M Zahid Hasan (プリンストン大学 ユージン・ヒギンズ物理学教授／マサチューセッツ工科大学客員教授)	第1区分 (11及び 12番の海 外招へい 者を追 加)
2				Tanusri Saha-Dasgupta (SN ポーズ国立基礎科学センター物性物理学グループリーダー)	
3				Avinash Dadhich (マニパル・ロースクール教授)	
4				Pulasthi Gunawardhana (スリ・ジャヤワルダナプラ大学工学部情報通信工学科上級講師)	
5				Liu Jun (中国農業大学植物防疫学院植物病理学科教授)	
6				Looi Lai Meng (マレーシア大学医学部病理学科特別教授)	
7				Mirjana Radović-Marković (バングラデシュ科学アカデミー海外フェロー)	
8				Syed Arshad Hussain (トリプラ大学物理学部教授)	
9				Ellen Bendt (ニーダーライン応用科学大学纖維・衣料研究所教授、纖維製品 デザイン研究責任者)	
10				Anik Bhaduri (Future Earth's Sustainable Water Future Programme (Water Future)ディレクター、Future Earth-Asia Regional Committee 共同議長)	
11				LOURDES J. CRUZ (フィリピン大学海洋科学研究所名誉教授、Future Earth Philippines 議長)	
12				Siwatt Pongpiachan (タイ国立開発行政研究院社会・環境開発科教授、Future Earth Thailand 議長)	

## 公開シンポジウム

「増大する野生動物と人間の軋轢：これからの鳥獣管理と人間社会を考える」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同ワイルドライフサイエンス分科会
2. 共 催：国立研究開発法人国立環境研究所自然共生研究プログラム、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所、京都大学生態学研究センター、京都大学野生動物研究センター
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和6年（2024年）11月24日（日）13:00～17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：

生物多様性は様々な形で我々人間に恵みを与えてくれますが、近年、自然と人間の関係のバランスが崩れつつあります。その顕著な例がクマ、イノシシ、シカなどの野生動物の出没の増加による被害の増大です。

人口減少社会において人間の活動域が縮小する中で、生物多様性との関わり方や生態系管理の空間デザインも再編を余儀なくされています。

本シンポジウムでは、増大する野生動物と人間の軋轢に関して、獣害や人獣共通感染症に関する国内・国内の事例を紹介し、背景にある人間社会の変動を考察し、これからの鳥獣管理や土地利用のあり方を考えます。
9. 次 第：

13:00 挨拶  
村山 美穂（日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授）

13:05 趣旨説明  
山野 博哉（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人国立環境研究所生物多様性領域上級主席研究員）

<前半：野生動物と人間の軋轢の実態>

(司会)

安田 仁奈（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13:10 人とヒグマの軋轢はなぜ増えているのか？

坪田 敏男（北海道大学獣医学研究院教授）

13:35 複雑多様化する軋轢を考える～日本ではどのような問題が起きているか～

浅野 玄（岐阜大学応用生物科学部准教授）

14:00 身近に潜む感染症 — 野生動物 ⇄ ダニ → 人

前田 秋彦（日本学術会議連携会員／京都産業大学生命科学部産業生命科学科教授）

14:25 アフリカゾウの獣害：保全と地域の発展に資する持続可能な対策の模索

寺田 佐恵子（日本学術会議連携会員／大阪公立大学大学院農学研究科助教）

14:50-15:05 (休憩)

<後半：軋轢解消に向けて>

(司会)

寺田 佐恵子（日本学術会議連携会員／大阪公立大学大学院農学研究科助教）

15:05 動物の生態・行動の理解と人口減少下における鳥獣管理の最適化

深澤 圭太（国立研究開発法人国立環境研究所生物多様性領域主任研究員）

15:30 鳥獣保護管理に関する法制度の経緯と今後の課題

神山 智美（富山大学学術研究部社会科系教授）

15:55 これからの中長期的な野生動物管理のあり方～人材育成と土地管理者の役割

宇野 裕之（東京農工大学農学部附属野生動物管理教育研究センター長）

16:20 総合討論

(司会)

山野 博哉（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人国立環境研究所生物多様性  
領域上級主席研究員）

(コメンテーター)

環境省担当者（環境省野生生物課）

17:00 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム  
「プラネタリー・ヘルスフレームワークで築く人類と地球の持続可能な共生社会」  
の開催について

1. 主 催：環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会、広島大学  
IDECA 国際連携機構
2. 共 催：Planetary Health Alliance Japan HUB
3. 後 援：未定
4. 日 時：令和6年（2024年）11月9日（土）13:00～16:15
5. 場 所：広島大学霞キャンパス凌雲棟（広島県広島市南区霞1-2-3）（ハイブリッド  
開催）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：  
人類の人為的な活動が関連する地球温暖化や生物多様性の損失、その他の環境変化は、人を含む生態系や社会に様々なリスクをもたらしている。多様なリスクがもたらしてきた影響を分析するとともに、課題を解決する社会実践を重視する取組は「プラネタリー・ヘルス」と呼ばれている。  
日本学術会議環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会は、令和5年（2023年）9月7日に公開シンポジウム「[プラネタリー・ヘルス研究 市民公開シンポジウム]気候変動・生物多様性損失と人間の健康・社会：学際研究から市民協働実践活動の展開」を開催し、学際領域の研究の進捗、地球規模の取組と地域社会の実践例を踏まえ、地域市民活動や経済活動と連動した超学際的な取組みの展望を議論した。特に、人間の健康と地球の健康が独立ではなく相互依存の関係にあることを認識し、人間の政治・経済・社会のあり方との関係を注視し、最上の健康・ウェルビーイングと公正性の実現を目指すことによる、持続可能な開発目標の達成に向けての新たな展開が期待されている。  
本シンポジウムは、超学際的な取組の中で注目されている、「自然再興（ネイチャーポジティブ）」、「脱炭素（カーボンニュートラル）」、「循環型経済（サーキュラーエコノミー）」とプラネタリー・ヘルスとの関係性について、国際的な視座、国内の進捗状況、地域の実践研究について理解を深め、プラネタリー・ヘルスにおける今後の社会実践

の展開並びに国際的な協働活動について議論を行う。

## 9. 次第：

- 13:00 開会挨拶  
田中 純子（日本学術会議連携会員／広島大学理事・副学長）
- 13:05 環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会委員長挨拶  
中村 桂子（日本学術会議連携会員／東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科国際保健医療事業開発学分野教授）
- 13:15 趣旨説明  
鹿嶋 小緒里（日本学術会議連携会員／広島大学 IDEC 国際連携機構プラネタリー・ヘルスイノベーション・サイエンスセンター（PHIS）センター長／広島大学大学院先進理工系科学研究科准教授）
- 第1セッション「基調講演」
- 13:20 『人類生態学の視座とプラネタリー・ヘルスの日本での実践』（仮題）  
渡辺 知保（日本学術会議連携会員／長崎大学大学院プラネタリー・ヘルス学環教授）
- 13:40 『人類と地球の持続可能な共生をめざして』（仮題）  
サミュエル・マイヤーズ（プラネタリー・ヘルス・アライアンス創設理事長／ジョンズホプキンス大学公衆衛生大学院教授／ジョンズホプキンス大学プラネタリー・ヘルス研究所所長）
- 休憩（10分）（14:50～15:00）
- 第2セッション「パネルディスカッション」
- 15:00 「自然再興（ネイチャー・ポジティブ）」、「脱炭素（カーボンニュートラル）」、「循環型経済（サーキュラーエコノミー）」とプラネタリー・ヘルスとの関係性について対談  
司会  
三本木 至宏（広島大学大学院統合生命科学研究科教授）  
鹿嶋 小緒里（日本学術会議連携会員／広島大学 IDEC 国際連携機構 プラネタリー・ヘルスイノベーション・サイエンスセンター（PHIS）センター長／広島大学大学院先進理工系科学研究科准教授）
- パネリスト  
安家 叶子（国際自然保护連合日本委員会研究員）  
増井 利彦（国立研究開発法人国立環境研究所社会システム領域長）

宇野 真樹（広島大学統合生命科学研究科食料資源経済学研究室博士課程）

サミュエル・マイヤーズ（プラネタリー・ヘルス・アライアンス創設理事長／ジョンズホプキンス大学公衆衛生大学院教授／ジョンズホプキンス大学プラネタリーヘルス研究所所長）

長命 洋祐（広島大学大学院統合生命科学研究科食料資源経済学准教授）

橋爪 真弘（日本学術会議連携会員／東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教授）

渡辺 知保（日本学術会議連携会員／長崎大学大学院プラネタリーヘルス学環教授）

16:10 閉会挨拶

金子 慎治（日本学術会議連携会員／広島大学理事／副学長（グローバル化担当））

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「わたしたちごと」としてのケア ～ 家族だけでも、専門家だけでもなく」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会、臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会、健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会
2. 共 催：一般社団法人日本看護系学会協議会
3. 後 援：公益社団法人日本看護科学学会、日本老年学会、一般社団法人日本建築学会  
ケアサイエンスと建築ワーキンググループ、障害学会、人間・環境学会、公  
益社団法人こども環境学会、一般社団法人日本医療・病院管理学会、一般社  
団法人日本サイコオンコロジー学会、一般社団法人日本社会福祉学会、認定  
特定非営利活動法人ささえあい医療人権センターCOML、一般社団法人日  
本プライマリ・ケア連合学会、当事者研究ネットワーク、特定非営利活動法  
人DPI日本会議（以上、予定）
4. 日 時：令和6年（2024年）11月24日（日）13:00～16:00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：  
少子高齢・人口減少社会が急速に進む日本では、これまでの制度や単一の学問の力では解決困難な複雑な問題が急増している。我々が提案する「ケアサイエンス」とは、ケアに関わる複雑な問題の根拠を解明するだけでなく、多くの学問分野の連携の下、あらゆる市民、行政、企業等と連携・協働して、〈新しいケア〉とケアを核とする社会モデルのあり方を模索し、共につくり上げていく学術と教育が連動する活動を意味する。この活動を通して、人々の暮らしにケアサイエンスとその成果を根づかせることで実現する相互支援社会を「ケア共同社会」と呼び、その構築を目標として掲げている。

本シンポジウムは、誰もがケアし、ケアされるケア共同社会の実現に向けて、1) ケアサイエンスとケアの担い手について、2) ケア・イノベーションについて、3) ケアのあり方について、をそれぞれのテーマとする3回のシリーズの初回に当たる。これらの連続

シンポジウムにより、人間にとてケアをする／されることの意味やケアの双方向性・重層性など多方面からの考察を行い、ケアサイエンスという新しい学問的見地から、直面している問題の核心を探る。そして、関連する学問分野や実践活動の担い手、制度の担い手など多様な関連主体がより効果的に連携・協働できる提案や見解を見出すことを目的とする。

初回シンポジウムでは、まずこれまでのケアサイエンスの到達点を概観して参加者と現状の共有を行う。さらに、第一部としてケアの担い手と担い方、ケア観の変化について話題提供を行う。第二部では、これらの話題提供を基に、ケアサイエンスの普及と実装に向けた課題や進め方、目指すところについてのディスカッションを行う。多分野の話題提供者・登壇者及び参加者の皆様との議論を通して、ケアの価値観を共有し、ケアを当たり前のものとして共に生きる社会をつくり育てていくために講じるべき策について検討する。

## 9. 次 第：全3時間

13:00	開会	司 会 大江 美佐里（日本学術会議連携会員／久留米大学保健管理センター准教授） 副司会 山本 則子（日本学術会議連携会員／東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻高齢者在宅長期ケア看護学分野教授）
13:05	挨拶	磯 博康（日本学術会議副会長／国立研究開発法人国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長）
13:10	冒頭	●これまでのケアサイエンスの到達点と議論の整理 西村 ユミ（日本学術会議第二部会員／東京都立大学健康福祉学部・大学院人間健康科学研究科教授） ●これからの方針 熊谷 晋一郎（日本学術会議第二部会員／東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野教授）
13:20	第一部 前半	話題提供（各15分） ● [障害支援とケア] ケアの依存先を分散することと自立：ユーザーとケアラーの視点から 熊谷 晋一郎（日本学術会議第二部会員／東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野教授） ● [介護とケア] 地域資源で「したい・できる」の実現を支え合う 松岡 洋子（東京家政大学人文学部教育福祉学科教授） ● [医療とケア] がん患者とともにあゆむケア開発 内富 康介（日本学術会議連携会員／東京慈恵会医科大学がんサバイバーシップ・デジタル医療学講座産学連携教授）

14:05	休憩	(10 分間)
14:15	第一部 後半	<p>話題提供 (各 10 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●看護学からみたケアサイエンス 西村 ユミ (日本学術会議第二部会員／東京都立大学健康福祉学部・大学院人間健康科学研究科教授)</li> <li>●社会福祉学からみたケアサイエンス <u>和氣 純子 (日本学術会議第一部会員／東京都立大学大学院人文科学研究科教授)</u></li> <li>●建築学からみたケアサイエンス <u>山田 あすか (日本学術会議連携会員／東京電機大学未来科学部建築学科教授)</u></li> <li>●障害学・当事者研究からみたケアサイエンス 熊谷 晋一郎 (日本学術会議第二部会員／東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野教授)</li> <li>●ケア情報学からみたケアサイエンス 桐山 伸也 (静岡大学情報学部情報科学科教授)</li> </ul>
15:05	休憩	(10 分間)
15:15	第二部 ：議論	<p>パネルディスカッション：ケアサイエンスの普及と実装に向けた到達点と課題 日本にケア共同社会を実現するには：失敗に学ぶ <u>森山 美知子 (日本学術会議第二部会員／広島大学大学院医系医学研究科教授)</u></p> <p>司 会 西村 ユミ (日本学術会議第二部会員／東京都立大学健康福祉学部・大学院人間健康科学研究科教授) 山田 あすか (日本学術会議連携会員、東京電機大学未来科学部建築学科教授)</p> <p>パネラー 熊谷 晋一郎 (日本学術会議第二部会員／東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野教授) 松岡 洋子 (東京家政大学人文学部教育福祉学科教授) 内富 康介 (日本学術会議連携会員／東京慈恵会医科大学がんサバイバーシップ・デジタル医療学講座産学連携教授) 桐山 伸也 (静岡大学情報学部情報科学科教授)</p>
16:00	閉会	

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員)

公開シンポジウム  
「総合的病害虫・雑草管理の課題と望まれる新技術」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会
2. 共 催：日本植物保護科学連合
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和6年（2024年）11月30日（土）13:00～16:50
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否： 可  
一般参加者の参加費の有無： 無
7. 分科会の開催：未定
8. 開催趣旨：  
世界的な人口増加や異常気象の中で、食料の安定供給は一層重要な課題となっている。作物に大きな減収をもたらす主な要因の一つが種々の病害虫や雑草であり、これらの防除には農薬が用いられることが多い。しかし、近年、我が国の農業生産をより環境保全を重視したものに転換していくことが提唱され、利用可能な全ての防除技術を活用した総合的病害虫・雑草管理の重要性が広く認識されるようになると共に、環境への負荷をできるだけ抑える多様な技術が強く要望されるようになってきた。本シンポジウムでは、病害、虫害及び雑草害に対する総合的管理の現状と課題、そして更なる高度化に向けて期待される新技術についても取り上げ、これらに関する話題提供を受けて、農作物の生産性及び品質の維持・向上と環境負荷低減の両立について討議し理解を深める。
9. 次 第：  
13:00 開会挨拶  
渡辺 京子（日本学術会議第二部会員／玉川大学農学部教授／農学委員会植物保護科学分科会委員長）  
13:10 「ジャガイモシストセンチュウの防除に向けて—孵化促進物質の単離構造決定と生合成研究—」  
水谷 正治（神戸大学大学院農学研究科教授）  
座長：中野 雄司（京都大学大学院生命科学研究科教授）  
13:45 「超音波を用いた新しい物理的害虫防除技術—コウモリから逃げる蛾—」  
中野 亮（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構植物防疫研究部門上級

研究員)

座長：日本 典秀（京都大学大学院農学研究科教授）

14:20 「農業生産環境に広く分布するマイコウイルスの性状解析とその活用に関する構想」

森山 裕充（東京農工大学大学院農学研究院教授）

座長：松田 一彦（日本学術会議連携会員／近畿大学農学部応用生命化学科教授）

14:55～15:10 （休憩）

15:10 「ヘソディムに基づく土壤病害の予防的管理の重要性と今後の展望」

吉田 重信（日本学術会議連携会員（特任）／国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構植物防疫研究部門グループ長）

座長：染谷 信孝（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構植物防疫研究部門上級研究員）

15:45 「雑草の有害化を回避するためのデータ活用可能性とその展望」

松橋 彩衣子（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構植物防疫研究部門研究員）

座長：西田 智子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構理事）

16:20 総合討論

司会：松本 宏（日本学術会議連携会員／筑波大学名誉教授／日本植物保護科学連合運営委員会委員長）

16:50 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
 「第14回計算力学シンポジウム」  
 の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会
2. 共 催：一般社団法人可視化情報学会、特定非営利活動法人 CAE懇話会、一般社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本計算工学会、日本計算数理工学会、日本計算力学連合、一般社団法人日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合 (Asian Pacific Association for Computational Mechanics ; APACM)、国際計算力学連合 (International Association for Computational Mechanics ; IACM)
3. 後 援：公益社団法人自動車技術会
4. 日 時：令和6年（2024年）12月10日（火）10:00～17:30
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
 一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：  
 我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手研究者が最新の成果を披露します。日本における広い分野の計算力学研究と活用の成果を、まとめて聞くことができる貴重な機会です。さらに、2021年供用開始から4年目になるスーパーコンピュータ「富岳」の成果と今後の計算科学の方向性について、計算力学分野におけるスーパーコンピュータ「富岳」の成果と今後の計算科学ロードマップと題した特別企画を開催し、第一線でご活躍中の研究者による講演と討論を行います。
9. 次 第：  
 総合司会：岡田 裕（東京理科大学創域理工学部教授）  
 10:00-10:10 開会の辞  
坪倉 誠（日本学術会議連携会員／神戸大学大学院システム情報学研究科教授／国立研究開発法人理化学研究所計算科学研究センターチームリーダー）

第Ⅰ部 若手研究者による講演

10：10-10：30 講演1（日本計算力学連合）

石田 駿一（神戸大学大学院工学研究科機械工学専攻助教）

「磁性液滴挙動の数値解析」

10：30-10：50 講演2（一般社団法人日本応用数理学会）

大城 泰平（北海道大学化学反応創成研究拠点特任准教授）

「反応速度論シミュレーションに対する速度定数行列縮約法の数理」

10：50-11：10 講演3（一般社団法人日本計算工学会）

山本 剛大（広島大学大学院先進理工系科学研究科助教）

「弾塑性解析へのBlock Newton 法の適用」

11：10-11：30 講演4（一般社団法人日本機械学会計算力学部門）

森田 直樹（筑波大学システム情報系助教）

「大規模並列構造解析の高度化と複合材料の強度評価への適用」

11：30-11：50 講演5（特定非営利活動法人 CAE懇話会）

岡田 明久（株式会社豊田中央研究所数理工学研究領域）

「量子アニーリングを活用した逐次最適化手法の製品設計への適用」

11：50-13：30 昼休み

13：30-13：50 講演6（日本計算数理工学会）

杉田 直広（東京工業大学科学技術創成研究院助教）

「超音波診断用造影剤の低次元力学モデルと非線形解析」

13：50-14：10 講演7（一般社団法人可視化情報学会）

中島 卓司（広島大学大学院先進理工系科学研究科准教授）

「意匠空間を考慮した自動車の多目的空力設計探査技術の構築」

14：10-14：30 講演8（一般社団法人日本シミュレーション学会）

藤田 和広（埼玉工業大学工学部准教授）

「昆虫羽ばたき翼における受動的運動の流体-構造連成モデル」

14：30-14：40 休憩

第II部 特別企画「計算力学分野におけるスーパーコンピュータ「富岳」の成果と今後の計算科学ロードマップ」

モダレータ：吉村 忍（東京大学大学院新領域創成科学研究科特任教授）

14：40-15：10 特別講演1

伊井 仁志（東京工業大学工学院教授）

「『富岳』を用いた脳循環の *in silico* モデリングとデジタルツイン構築に向けた取り組みと展望」

15：10-15：40 特別講演2

加藤 千幸（日本大学理工学部理工学研究所上席研究員）

「産業界における『富岳』の利用成果と今後の展望」

15：40-16：10 特別講演3

藤堂 真治（東京大学大学院理学系研究科教授）

「ポスト『富岳』に向けた計算科学ロードマップ」

16：15-17：25 総合討論

パネリスト：第II部特別講演者3名及び、大島 まり（日本学術会議連携会員／東京大学大学院情報学環教授）、大出 真知子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人物質・材料研究機構構造材料研究センター計算構造材料グループ主任研究員）

17：25-17：30 閉会の辞

越塚 誠一（日本学術会議第三部会員／東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム  
「人工知能で生命を追求する データ駆動による生命の理解  
—細胞から人の動きまで—」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 IUPAB 分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会
2. 共 催：大阪大学蛋白質研究所
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和7年（2025年）1月9日（木）13:00～18:00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

近年の計測技術の目覚ましい進展により、科学分野においては膨大な情報の取得が可能になり、これらの情報の解析を介した知識発見やデータ駆動的な予測がこれまで以上に重要になっている。生命科学においては、ヒトゲノム解読以降、様々なオミクス情報、分子構造情報、細胞や個体のイメージング情報などの生命情報ビッグデータが容易に取得できるようになり、個々の細胞の動作や相互作用から、疾患や行動パターンに至るまで、幅広いレベルでの理解や予測が進んでいる。人工知能（AI）技術の急速な発展は、これらの複雑なデータから新たな知見を引き出すための強力なツールとなっており、AIとデータ駆動の生命科学の融合は、医学や生物学の研究に革新をもたらし、社会全体にわたる影響を与える可能性がある。

本公開シンポジウムでは、「人工知能で生命を追求する データ駆動による生命の理解—細胞から人の動きまで—」というテーマの下、生命科学とAIの融合による最新の研究成果や今後の展望について議論する。生命科学と情報科学・AIの研究者が一堂に会し、異分野間の連携による新たな研究領域の開拓を目指す。

## 9. 次 第：

13:00 開会挨拶

有田 正規（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授）

第一部 分子から細胞まで

(司会) 岡田 真里子（日本学術会議第二部会員／大阪大学蛋白質研究所教授）

13:10 「異形配偶子の成立機構の解明」

林 克彦（大阪大学大学院医学系研究科・医学部教授）

13:40 「ライブイメージングで紐解く細胞の運命決定」

小長谷 有美（国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センターチームリーダー）

14:10 「データ駆動による生命システムの薬物応答解析」

山西 芳裕（名古屋大学大学院情報学研究科複雑系科学専攻教授）

<休憩> 14:40 – 14:50

第二部 個体から集団まで

(司会) 塚田 信吾（日本学術会議連携会員／日本電信電話株式会社物性科学基礎研究所フェロー／大阪大学ヒューマン・メタバース疾患研究拠点招へい教授）

14:50 「生命システムの研究に理論は必要か？」

池上 高志（東京大学大学院総合文化研究科教授）

15:40 「データ駆動で実現する、人と企業のマッチング」

仲 曜子（ウォンテッドリー株式会社代表取締役 CEO）

市村 千晃（ウォンテッドリー株式会社データサイエンティスト）

16:00 「生成AIを用いた脳内情報処理の解明と解読」

小林 一郎（お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系教授）

<休憩> 16:20 – 16:30

16:30 パネル討論

コーディネータ：

島村 徹平（日本学術会議連携会員／東京医科歯科大学難治疾患研究所計算システム生物学分野教授）

パネリスト：

池上 高志（東京大学大学院総合文化研究科教授）

市村 千晃（ウォンテッドリー株式会社エンジニア）

小長谷 有美（国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センターチーム  
リーダー）

小林 一郎（お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系教授）

林 克彦（大阪大学大学院医学系研究科・医学部教授）

山西 芳裕（名古屋大学大学院情報学研究科・複雑系科学専攻教授）

坂内 博子（日本学術会議連携会員／早稲田大学理工学術院教授）

17:50 閉会挨拶

野地 博行（日本学術会議連携会員／東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻教  
授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

## ○国際会議の後援（2件）

以下の国際会議について、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第16回有機エレクトロニクスに関するアジア会議

主催：第16回有機エレクトロニクスに関するアジア会議組織委員会

期間：令和6年11月19日（火）～11月22日（金）

場所：大阪公立大学 I site なんば

参加予定国数：9か国・地域

申請者：第16回有機エレクトロニクスに関するアジア会議組織委員会

委員長 内藤 裕義

2. 第2回世界マリンステーション会議

主催：マリンバイオ共同推進機構

期間：令和6年11月27日（水）～11月29日（金）

場所：静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」

参加予定国数：15か国・地域

申請者：マリンバイオ共同推進機構 機構長 稲葉 一男

※国際委員会9月27日承認、同国際会議主催等検討分科会9月10日承認

## ○国内会議の後援（6件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適當である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第21回日本社会福祉学会フォーラム

主催：一般社団法人日本社会福祉学会

期間：令和6年12月14日（土）

場所：東北福祉大学仙台駅東口キャンパス及びオンライン

参加予定者数：現地約150名、オンライン約100名

申請者：一般社団法人日本社会福祉学会

会長 和氣 純子

審議付託先：第一部

審議付託結果：第一部承認

2. 第48回人間－生活環境系シンポジウム

主催：人間－生活環境系学会

期間：令和6年12月7日（土）、8日（日）

場所：筑波大学筑波キャンパス5C棟

参加予定者数：約100名

申請者：人間－生活環境系学会

会長 光田 恵

審議付託先：第二部、第三部

審議付託結果：第二部、第三部承認

3. 2024年世界食糧賞受賞者 キャリー・ファウラー博士特別シンポジウム：

作物遺伝資源多様性保全に捧げたキャリアおよび適応作物と土壤のための新ミッション

主催：国際農林水産業研究センター（国際農研）

後援（予定）：外務省、農林水産省、農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

期間：令和6年10月11日（金）

場所：東京大学弥生講堂一条ホール及びオンライン

参加予定者数：現地約200名、オンライン約300名

申請者：国立研究開発法人国際農林水産業研究センター 情報広報室

プロジェクトリーダー 白鳥 佐紀子

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部承認

4. 第 19 回医療の質・安全学会学術集会

主催：一般社団法人医療の質・安全学会

期間：令和 6 年 11 月 29 日（金）、30 日（土）

場所：パシフィコ横浜ノース（神奈川県横浜市）

参加予定者数：約 3,000 名

申請者：一般社団法人医療の質・安全学会 理事長 水本 一弘、

第 19 回医療の質・安全学会学術集会 大会長 荒井 有美

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部承認

5. 令和 6（2024）年度日本結晶学会年会特別講演会

主催：一般社団法人日本結晶学会

期間：令和 6 年 11 月 8 日（金）

場所：名古屋大学東山キャンパス 豊田講堂ホール

参加予定者数：約 300 名

申請者：一般社団法人日本結晶学会

会長 杉山 和正

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

6. 第 42 回日本獣医師会獣医学術学会年次大会（令和 6 年度）

主催：公益社団法人日本獣医師会

期間：令和 7 年 1 月 24 日（金）～1 月 26 日（日）

場所：仙台国際センター（宮城県仙台市）

参加予定者数：約 1,600 名

申請者：公益社団法人日本獣医師会

会長 藏内 勇夫

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部承認

○今後の予定

●幹事会

第373回幹事会	第192回総会期間中に開催	
第374回幹事会	令和6年11月28日（木）	14：30から
第375回幹事会	令和6年12月20日（金）	14：30から
第376回幹事会	令和7年1月23日（木）	14：30から
第377回幹事会	令和7年2月27日（木）	14：30から
第378回幹事会	令和7年3月27日（木）	14：30から

●総会

第192回総会	令和6年10月21日（月）～23日（水）
---------	----------------------